



# 浦口こうてんの 県政報告

発行：浦口こうてん事務所  
〒641-0045 和歌山市堀止西1-10-14  
TEL.073-424-4860 FAX.073-424-3733  
E-mail uraguchi@nnc.or.jp  
http://www.nnc.or.jp/ uraguchi  
平成16(2004)年6月 Vol.2

## 20年後、和歌山市11万人減少で27万人に!?

### 浦口高典議員初の一般質問で、「和歌山の危機」を訴える

平成15年12月定例会において、9月議会で予算委員会での質問に続き、一般質問に立ち、「人口減少社会における県政のあり方」について木村知事はじめ、5人の担当部長に質した。その独自の観点からの弁論は、とても新人議員と思えない堂々としたものであり、当局から積極的な答弁を引き出すことができた。

一般質問及び答弁、全部掲載

# 人口激減!どうする和歌山

浦口議員 質問  
人口激減時代の和歌山、「改革なくして満足なし」の思い切った木村改革を!

議長のお許しを得まして、通告に従い一般質問をさせていただきます。新生わかやま県議団の浦口高典でございます。どうぞよろしくお願いたします。



伝統ある和歌山県議会壇上に初登壇!  
政治の師である故玉置和郎先生の思いを胸に、「日の丸」を付けて熱く語る「和歌山改革論」

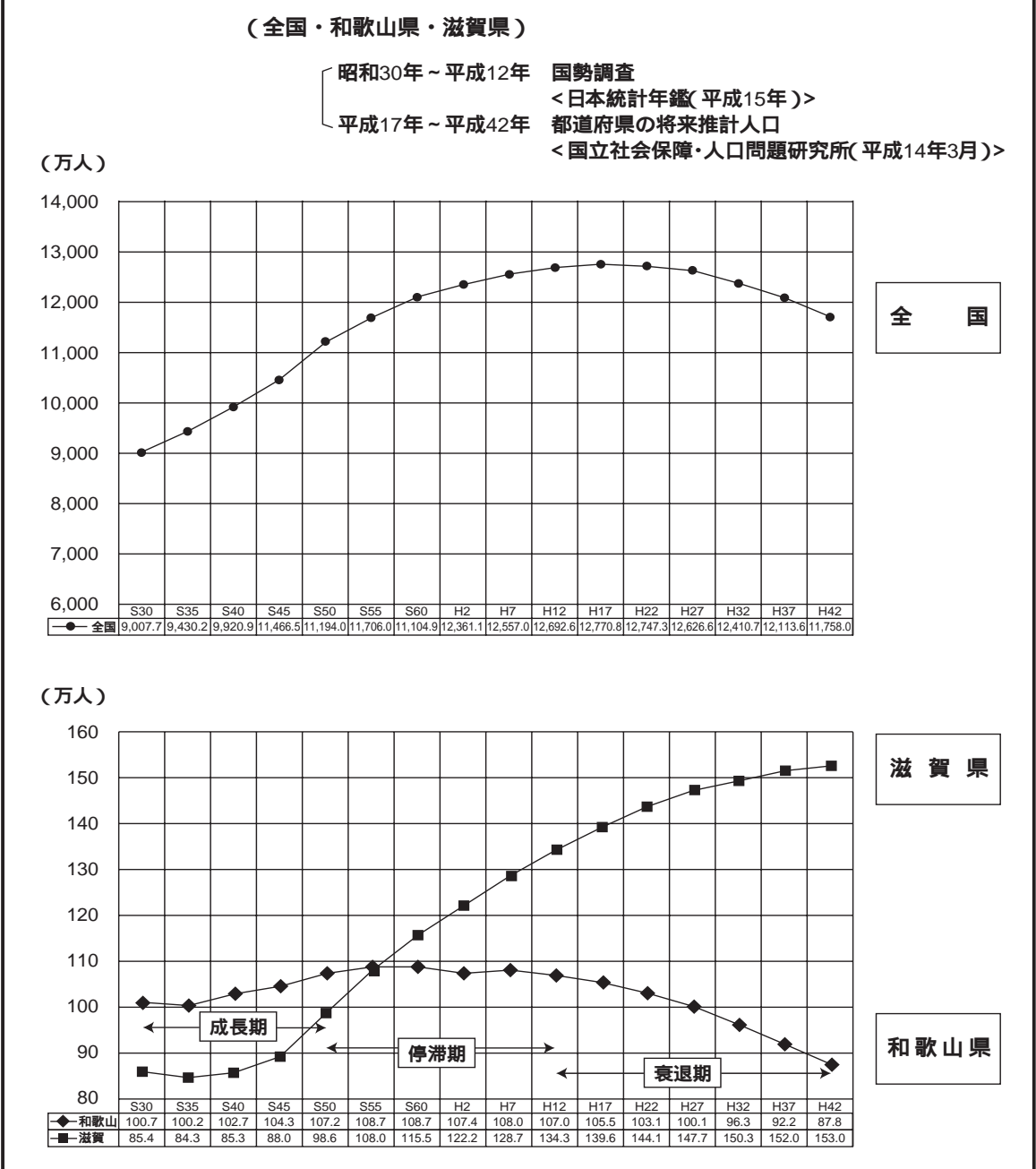
質問に入ります前に、一言申し上げます。私はこの四月の県議会議員選挙初当選以来、今回初めてこの伝統ある和歌山県議会の壇上に立たせていただくことに大変な感動を覚えるとともに、新たな責任の重さに身が引き締まる思いでございます。と申しますのは、私の政治の師は第三次中曽根内閣で総務庁長官を務めた故玉置和郎先生でありましたが、玉置先生は、昭和六十年、ふるさと和歌山の発展のためにと苦闘も過言ではない半島振興法という法律を国会で成立させました。その前に

玉置先生は肝臓がんを患っており、一日も早く手術をしなければ命が危ないと言われながらも、この法律の成立を見るまで拒み続け、結果として著しく命を縮め、昭和六十二年一月二十五日に他界されました。この政治家としての凄まじい生きざまをそばで目の当たりにしたとき、その魂の万分の一でも引き継ぎ、玉置先生のよき愛したこの和歌山のために仕事ができる政治家になりたいと心に期すものがございました。しかし、何の基盤も持たない一人の人間が政治の場に立つことは

並大抵のことではありませんでした。過日、十年表彰を受けられた向井先生は、六年間で二回の落選を経験されたと言われ、それから十年、初めて衆議院選挙に出馬以来、連続三回落選いたしました。落選のたびに何度もなく泣き、その志が崩れそうになつてきたとき、私を心から支えてくれたのは支持者の皆さんと家族、そして玉置先生の遺言の中にある一節であります。それは、「政治家が自分の命にかけてでもという覚悟は一朝一夕にできるものではない。人様からたかれ、笑われ、突き放

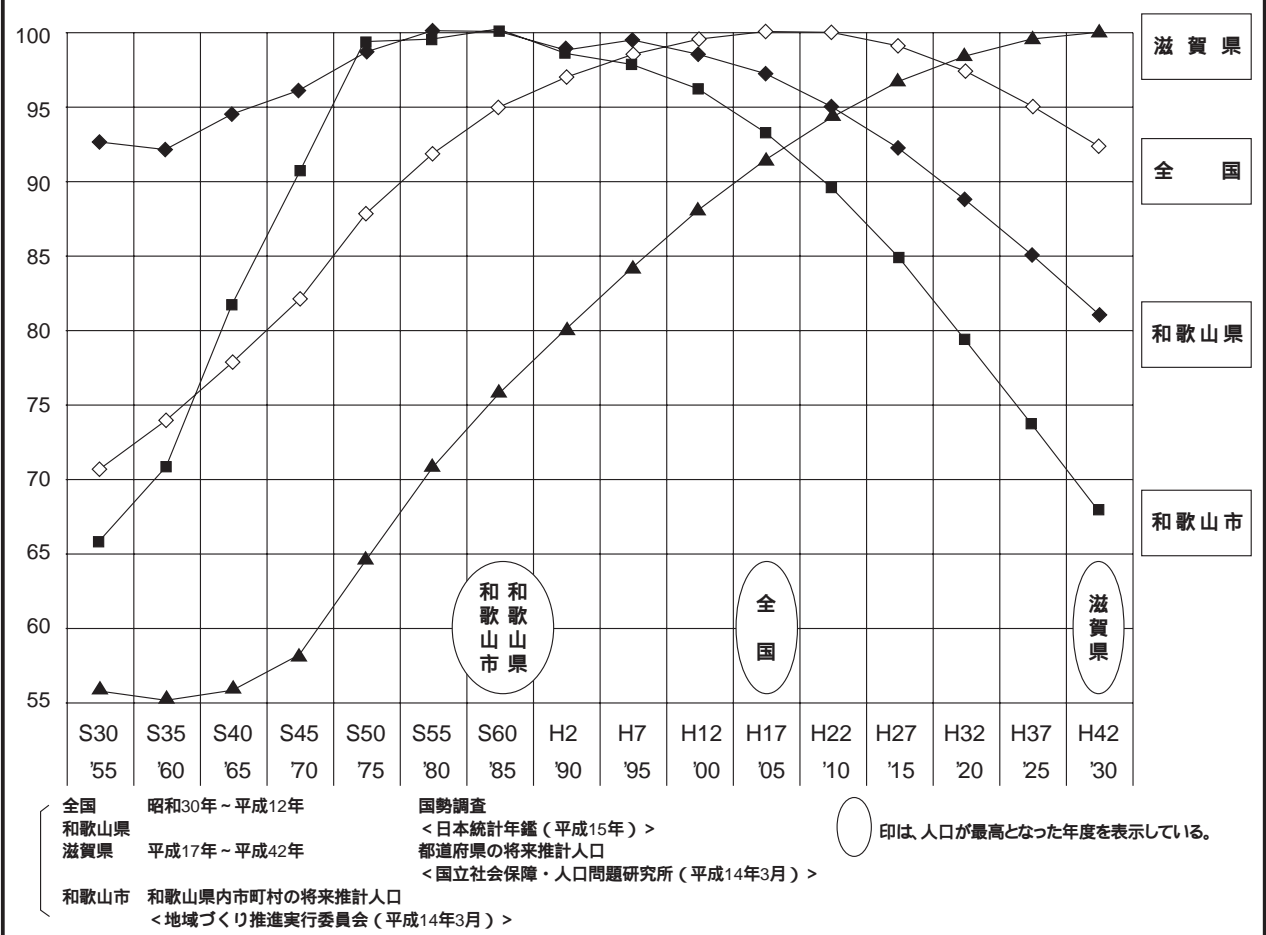
された中からこの国の一大事に対処する腹というものができるのだ」という言葉でした。この言葉を、砂をかみ、泥をなめるようなつらい日々の中で何度も何度もかみしめながら、きょう傍聴席にもお越しでいらつしやいます。多くの支持者の厚いご支援をいただき、這い上がつてまいりました。それだけに、知事初め県幹部の皆様には、小手先のご答弁ではなく真剣なご答弁をよろしくお願いいたします。

### 人口推移表 浦口作成資料 1



いたしましたが、まず全国では、やはり平成十七年にピークになりまして、それから緩やかに人口が減つております。その下は、和歌山県と同じ近畿地区の滋賀県を比較した図であります。和歌山県は、このようにずっと緩やかなカーブを描いて、減少傾向にあります。滋賀県はこのように人口が平成四十二年までずっと上がつてくるということなんでですね。これ、数字で言いますと、国勢調査による昭和三十年、和歌山県が人口が初めて百万人台に乗ったときに、滋賀県は約八十五万人でした。それから、二十五年後の昭和五十五年では約九十九万人と並び、さらに二十五年後の平成十二年には、和歌山県の約七十七万人に対して滋賀県は約百三十四万人と、既に二十七万人以上の差がついて完全に逆転していることがよくわかります。また、国立社会保障人口問題研究所の推計によると、平成四十二年つまり今から二十七年後には、

### 最多人口を100としたときの人口推移表 浦口作成資料 2



滋賀県が百五十三万人に  
対して和歌山県は何と八十  
八万人と、九十万人をもち  
つてしまつたとされていま  
す。これを激減と呼びずし  
て何と呼ぶでしょうか。し  
かも、このとき高齢化率は  
滋賀県の二五・一％に対し  
て和歌山県は三三・四％  
と、八ポイント以上も高く  
なつております。和歌山県  
の人口推移を私に命名し  
ますと、昭和三十年から  
五十年までは滋賀県と比  
べると緩やかですが人口の成  
長期であり、昭和五十年か  
ら平成十二年までは停滞期  
であり、平成十二年以降は  
衰退期で、しかも減少率が  
かなり激しくなつてきてお  
ります。

また、一番目の最多人口  
を二〇〇としたときのグラ  
フ（作成資料 2参照）  
を見ていただくとよくわか  
るとおり、滋賀県はまだ人  
口が増え続けております。  
平成四十二年が一〇〇です  
が、全国的に見ると、やは  
り平成十七年を一〇〇に緩  
やかに減少し、さらに  
和歌山県、和歌山市の減少  
ぶりが目撃され、和歌山市の推  
計人口は、地域づくり推進  
実行委員会のデータです  
が、これによると平成四十  
二年には約二十七万人と、  
最多人口の昭和五十七年の  
約四十七万のときに比べる  
と実に約六七％、つまり三  
人いたのが二人になつてし  
まうという激減ぶりであり  
ます。

ここで誤解のないよう  
にお断りしておきますが、私  
は人口が減少するのと同  
化率が高くなるのが悪いと  
言っているのではありません  
。また、決して悲観的に  
考え、不景気をおおるわけ  
でもありません。現実の状  
況と将来の推計を述べてい  
るだけです。

さて、ただここで単純な  
疑問があります。それは、  
今、多くの県民の皆さんが  
政治に求めている大きな役  
割は景気回復と地元経済の  
活性化であり、人の  
数が目に見えて減つてきて  
、高齢化率がさらに高く  
なる地域で、果たしてそれ  
が可能であるのかどうかと  
いうことでもあります。それ

に対して、ここで言う人口  
つまり定住人口がふえない  
のであれば交流人口をふや  
すとか、人口が減つても工  
T等で効率よく経済成長を  
考えようという発想はわか  
ります。しかし、そのよう  
なことはもう既にどこでも  
考へて取りかかっているこ  
とであります。実際に過去  
数年でIT等で経済が急成  
長し、雇用が大きく伸びた  
という話は聞いたこともあ  
りませんし、実感として感  
じられません。

小泉首相は「改革なくし  
て成長なし」と言いますが、  
そもそも和歌山では成長と  
いう概念そのものを取り除  
いた方がいいのではない  
か、そのように私は感じま  
す。もちろん、個々の企業  
や業界ではまだまだ伸びる  
余地はあると思いますが、  
あくまでも県全体としてと  
いうことでもあります。

それは、おまえはそれ  
をどのように表現するのか  
と聞かれますと、小泉流に  
言うなら「改革なくして満  
足なし」という概念で今後  
の県政の方向づけをしては  
ないかと思ひます。人口激減  
でさらに高齢化率の高い社  
会では、経済成長期のような  
数字の成長を追うことが自  
体、無意味ではないでしょ  
うか。それは私の言う満  
足とは何か。それは県民一  
人一人が日々の生活を安全  
で安心して送り、生きがい  
やりに誇り、そしてここに暮  
らすことに誇りを持つこと  
とであり、その一人一人の  
満足の集合体が地域社会で  
あり、大きく言うと県全体  
の満足につながると思ひま  
す。そのために、いろんな  
意味で旧来のシステムを大  
胆に改革し、県民一人一人  
が満足を実感できる努力を  
していかねばなりません。

政治や行政に携わる者の意  
識改革と発想の転換が必要  
であります。  
今回初めての質問という  
ことでもあり、まず自分の  
基本的な考え方を述べさせ  
ていただきましたが、和歌  
山県は人口激減で、さらに  
高齢化率が高い県になりつ  
つあるという共通のご認識  
を持っていただき、思い切

つた独自性のあるご答弁を  
お願いいたします。また、  
すべては言いませんが、  
和歌山県は今、元気があり  
ませんので、どうか県民の  
皆さんに勇気を与え、元氣  
になるようなご答弁をよろ  
しくお願い申し上げます。  
まず、商工労働部長にお  
尋ねいたします。

「私はエセ改革派」  
と聞かれた木村知事は、  
「改革を」独善的に進め  
たい。と述べてたあと、「私自身は  
むしろエセ改革派である」と  
公言している」と発言し  
た。と聞かれた木村知事は、  
「改革を」独善的に進め  
たい。と述べてたあと、「私自身は  
むしろエセ改革派である」と  
公言している」と発言し  
た。

「改革を」独善的に進め  
たい。と述べてたあと、「私自身は  
むしろエセ改革派である」と  
公言している」と発言し  
た。と聞かれた木村知事は、  
「改革を」独善的に進め  
たい。と述べてたあと、「私自身は  
むしろエセ改革派である」と  
公言している」と発言し  
た。

からまずすばらしいことと思  
いますが、人口が激減し、  
高齢化率がさらに高くなる  
社会で、農林水産業等、一  
次産業を通じての地域振興  
についてお聞かせ下さい。  
次に県土整備部長へ。  
私も、先月の二十六日に  
東京で開催された「東南  
海・南海地震に備える沿岸  
四県高速道路整備促進大  
会」と、地方の実情に合  
った道路整備の推進と財源確  
保を求めた決起大会」に参  
加し、国や道路公団に対し  
て強く要望してきた一人と  
して、決して公共事業がす  
べて悪いと言っているわけ  
ではありません。しかし、  
人口が激減し、県の財政が  
縮小する時代に入つてきて  
、本来、産業や生活の手  
段である道路等のハード面  
の整備をこれ以上積極的に  
進める必要が本当にあるの

「私自身はむしろエセ改革派である」と  
公言している」と発言し  
た。と聞かれた木村知事は、  
「改革を」独善的に進め  
たい。と述べてたあと、「私自身は  
むしろエセ改革派である」と  
公言している」と発言し  
た。

「私自身はむしろエセ改革派である」と  
公言している」と発言し  
た。と聞かれた木村知事は、  
「改革を」独善的に進め  
たい。と述べてたあと、「私自身は  
むしろエセ改革派である」と  
公言している」と発言し  
た。

の改革派知事のシンポジウ  
ムにおいて、「NPOと連  
携していく」と、はっきり  
足なし」という表現でこれ  
からの行政の目標として、  
県民一人一人の満足度とい  
うことを挙げました。しか  
し、これらには幾ら行政が  
ラッパを吹いても、本来主  
役である県民の皆さんがそ  
れに呼応してくれないけれ  
ば、結果として意味があり  
ません。そこで、三重県の  
北川前知事の「生活者起点  
の県政」ではありませんが、  
生活者から発するニーズを  
第一に考える、例えば「生  
活者発信の県政」というよ  
うな目標を掲げ、生活者つ  
まり県民の皆さんにも責任  
を持つていただく県政にし  
て、部長は大事だと思ひま  
す。部長は何かをお考えで  
しょうか。  
環境生活部長も、かつて

「私自身はむしろエセ改革派である」と  
公言している」と発言し  
た。と聞かれた木村知事は、  
「改革を」独善的に進め  
たい。と述べてたあと、「私自身は  
むしろエセ改革派である」と  
公言している」と発言し  
た。

「私自身はむしろエセ改革派である」と  
公言している」と発言し  
た。と聞かれた木村知事は、  
「改革を」独善的に進め  
たい。と述べてたあと、「私自身は  
むしろエセ改革派である」と  
公言している」と発言し  
た。

平成15年12月9日 火曜日

# 「私はエセ改革派」

「私はエセ改革派」  
と聞かれた木村知事は、  
「改革を」独善的に進め  
たい。と述べてたあと、「私自身は  
むしろエセ改革派である」と  
公言している」と発言し  
た。

「改革を」独善的に進め  
たい。と述べてたあと、「私自身は  
むしろエセ改革派である」と  
公言している」と発言し  
た。

「改革を」独善的に進め  
たい。と述べてたあと、「私自身は  
むしろエセ改革派である」と  
公言している」と発言し  
た。

木村知事 答弁  
（人口激減を前に）非常  
に憤然とした。スピーチ  
イー、ダイナミックに  
改革を進めていく。

今、浦口議員のお話を聞  
いて、非常に私も慄然  
とするものを感じました。  
近畿でというが、日本の中  
で成長している県のトップ  
の方にある滋賀県と比べる  
となかなか厳しいものがある  
わけですね。そしてまた、  
今の和歌山県の置かれてい  
る状況は、これは県民がど  
うか県政がどうかというこ  
とよりも、非常に日本の一  
国の構造的なものを一身に  
受けているということがあ  
るかと思ひます。ただ、  
そうではあつても、それを  
甘んじて受けて、そのまま  
これでいいわというふうな  
ことをしていいというこ  
とではありませぬ。今  
の時代、はっきり言つて一  
発逆転大ホームランという

ふうなことはないと私は認識しております。産業の分野、農業の分野、民生の分野、福祉の分野、いろいろな分野で今までのしがらみにとらわれることなく、相当思い切った改革を遂げております。しかしながら、変えていく対象は県民の人々です。県民の人がもう変わらなくていいというふうなことであれば、これはもうこちらとしてそれを独断的に進めていくわけにはいかないのです。こういうふうな理解を県民に求めながら、徐々にではなくてスピーディーに、そしてダイナミックに改革を進めていくというふうなことを考えているわけでございます。

私自身は、どちらかと申すと、真の改革者というよりは、むしろえせ改革派である(2記事参照)ということ、これはもう外で公言しているんですけれども、そのえせ改革派というのは、これは何も悪い意味で言うてるのではなくて、例えば県議会議員の考え方とか、県民の考え方とか、市町村長の考え方とか、そういうふうなものをいっていきながら、しかしながら今の状況に合わせて改革をしていく、そういうふうな意味で、私は自戒の念を持ってえせ改革派という言葉を用いて使っているということでございます。今の日本は、このごろ「ゆでガエル論」というのが使われています。お風呂の中へ水からカエルをほうり込んでおいたら、いつ飛び出したらいいかかわらないでゆで上がってしまうというふうな状況だと思えます。日本の国は、戦後五十八年ぐらいたったと右肩上がりの中で、その経済成長の恩恵を国民全員でそれに浴するということにならなってきた。なかなかなおのびから飛び出すことができないというふうなのが今の状況だと思えます。しかしながら、この二、三年、もうそれではだめだということとが外部から働きかけて、金融界なんかでは相当大きな改革が行われました。都道府県とか市町村だ

けが最後の護送船団になると、護送船団になることによって、それがひいては県民、市町村民に迷惑をかけるということにならないように、私一人がというよりは、むしろ県の職員全員がそういうふうな気持ちでやっていかなければなりません。そしてまた、NPOとの協働という点については、先ほどもお答えしたんですけども、結局、収入もほとんどなくなっていく、そういうふうな中で自治体がいなければならない仕事は、弱肉強食の世界が来るわけだから余計に多くなる。これをひとり公務員だけでやっていく、公務員だけの月給も高いですし、そういうふうな仕組みというものは、もう日本の国のこれからの時代には合わないということ、行政と市民団体がイコールパートナーとして住民のための仕事を担っていくような社会にしていかなければならないというふうな認識でやっています。先ほどのお話では、県が一生懸命作ってきたようなものはあかんというふうなお話もあつたようなんです。またそれに合わせているいる勉強していきたくて、議員各位から積極的な前向きな提言をいただけたら、私もそれに合わせていこうな仕事をしたいと思いたすので、よろしくお願いをいたします。

活用し、創業から成長段階まで多様な施策を講じています。また企業誘致につきましても、新たな雇用の創出と地域経済の活性化への起爆剤になることから積極的に取り組んでいるところでもあります。現在のように社会環境が急激な変化を遂げる中、地域産業の再生と先進的産業の育成を両輪としながら、若者が魅力を感じる就業の機会をふやすことにより、地域間競争に打ち勝ち、息吹の感じの和歌山となるよう全力を傾注してまいりたいと考えています。

**野添企画部長 答弁**

これからの地域振興、特に和歌山市での対応等についてでございますが、最近における本県の人口動態については、平成八年以来、八年連続の減少となるほか、高齢人口比率につきましても、今年度の調査で二・三％に及ぶなど、人口減少、高齢化傾向にあると考えております。

このような社会環境の変化の中、これまでのいわゆる右肩上がりの経済成長を前提としたシステムや手法では対応できず、従来の重厚長大産業の立地促進による地域振興施策は困難な状況と認識しております。このような状況のもとでは、本県の既存の資源、地域の特性を生かし、都市から地方への人口流動を目指す新ふるさと創りを推進するとともに、地場産業や農林水産業といった資源を見直し、科学技術導入による高付加価値化などによる高シニアアップして、和歌山の個性あふれる産業、産品を生み出していくことが重要であると考えています。また、来年度、高野・熊野地域が紀伊山地の霊場と参詣道として世界遺産登録されることを見込まれ、その保全と活用を通して和歌山県の自然、歴史、文化といった財産を磨き、京阪神の住民はもとより、世界の人々との交流拡大により、和歌山の

魅力を高めるためのさまざまな地域づくりが和歌山県の地域活性化につながるものと考えてございます。なお、和歌山市との振興につきましても、本年四月に和歌山県・和歌山市政策連携会議を設置し、中心市街地活性化、産業振興など、県市が相互に連携して解決を図るべき重要な施策課題について意見交換、連絡調整を図っております。今後とも、人口減少、高齢化社会といった社会環境の中、自立を目指す創意工夫ある

公社の負担を軽減するため、より低くすること、公社借入金は可能な限り長期間の返済を望むことなどを強く主張してまいりました。なお、金融機関もそれぞれの立場、考えに基づき主張を行い、主張の隔たりが解消できないことから当事者間における合意は困難となり、和歌山地方裁判所において調停に代わる決定がなされました。本決定につきましては、県、公社、金融機関がそれぞれ調停委員会において主

る応援要員の集結場所や救済物資の集積地、仮設住宅用地など防災対策の用地とする一方で、平常時には広場として県民の皆様が開放し利用していただけるよう整備を図ることとしておりますが、並行して特区制度等を活用し、和歌山県、和歌山市の活性化につながる事業の誘致にも全力で取り組むなど、コスモパーク加太の活用を図り、県民の皆様にご負担をかけないよう、県議会のご協力もお願いしてまいります。

また、人口減少、高齢化の進む地域の活性化を図るため、新たな担い手としてイターン者等の定住化を進める施策である緑の雇用事業、農業をやってみようプログラム等の展開や青の振興策の検討など、農・林・水産業を三位一体とした推進を行っていくとともに、橋本市杉尾地区の古代米の取り組みや古座川町平井地区のユズの加工などの地域資源を活用して地域の活性化を図ろうとする団体やNPO等に積極的に支援し、農林水産業の振興を通じて地域の振興を図ってまいりたいと考えてございます。

酒井県土整備部長 答弁  
和歌山県では、今後、人口減少、高齢化が進みます。進むという社会ですが、このような社会においては、今よりもさらにより効率的な経済活動や、より安全で安心な社会生活が求められるものと思われまます。そのため、効率的な経済活動や社会活動を支える高速道路等の幹線道路の整備はもとより、生活にかかわる施設におけるバリアフリー化や高齢者ドライバーに対応した道づくりなど、新しいニーズに対応した社会資本の整備も必要だと考えております。さらに、そのやり方については、例えば町中においては、自動車優先から歩行者優先へ方向転換を図り、住民の皆様方のご協力やご参加を前提とした道の使い方の工夫などにより、

津本環境生活部長 答弁  
生活者発信の県政という目標設定についてのご質問にお答えいたします。人口減少や高齢化など社会情勢の変化に伴い、県民の生きがいや満足度も多様化しているところでございますが、環境生活部におきましては、環境の保全や食の安全、県民生活の安全確立など、生活者に近い、県民が安心して暮らせる施策を担当してまいります。そして、これらの施策の推進に当たっては、特に重要と考えている点が幾つかございます。

その第一点は、徹底した情報開示のもと、住民との話し合いの中で信頼関係を築くことです。橋本市での高濃度ダイオキシン類問題におきましては、関係住民の方々が参加した協議会が、徹底した情報開示と話し合いにより円滑な問題解決に向かっているところであります。この橋本市での教訓を施策推進の基本として進めてまいりたいと考えてございます。

浦口議員 要望  
「自立」「支援」の新たな民間関係と知事選では是非「マニフェスト」作成を！  
各部長へ。決して小手先ではない大変誠意あふれるご答弁をいただき、まことにありがとうございます。人口減少で、さらに高齢化率の高い時代での行政のあり方というのは、正直本当に難しいなあというのが本音ではないかと私は思います。今後さらに思い切った施策を推進していただきたいと、そのように要望しておきます。

その一つの参考までにお話をさせていただきますが、五日の尾崎議員の質問の中で、犯罪の拡大を未然に防ぐために、アメリカの防犯防止学の考え方としてブローケン・ウィンドー・セオリー、日本語に訳しますと「割れ窓理論」と言っており、窓ガラスが一枚割れただけでもすぐに取っかえられて、それ以上連鎖的に割られるのを防ぐということである。私にはこれが大賛成であります。そのために、もっと警察官を増員して、地域の安全確保に力を入れることは大変なことだと思っております。しかし、財政難の折、それが難しいのであればどうしたらいいのか、それは、問題意識のある市民に立ち上がって

取り組みを県民の皆様とともに進めてまいります。次に、コスモパーク加太の特定調停についてでございます。県土地開発公社の金融機関からの借入金問題につきましても、県も利害関係人として調停に参加する中で、コスモパーク加太対策検討委員会からのご報告を踏まえ、県の債務保証については、全額保証は考えられず、必要最小限の範囲に限ること、公社借入金に係る将来利息については、

張ってきた結果によるものと考えております。本決定を受けまして、コスモパーク加太の活用は極めて重要なことであり、今後人口が減少し、高齢化がより進むといった社会環境が予想される中ではあります。検討委員会からのご報告を踏まえ、土地利用を図ってまいりたいと考えてございます。

具体的なには、喫緊の課題としての東南海・南海地震などの大規模災害時における

以上でございます。阪口農林水産部長 答弁  
地域の活性化を図るという団体やNPO等に積極的に支援する。  
農業を初め一次産業を通じての地域振興についてお答えいたします。農林水産業は、本県の基盤産業であり、農林水産業の振興はもろろんのこと、一次産業を核とした他産業との連携により地域の活性

既存の道路幅の中で車道を狭めて歩道を拡幅するような既存施設を最大限有効活用するというような実施面での工夫も、限られた予算の中で今後必要になると考えております。今後とも、人口減少や高齢化にも対応し、時代のニーズに合った、明るく、安全で安心な地域づくりを目指して、地方の実情に合った公共事業を戦略的、重点的に進めてまいります。

以上三点は基本的な姿勢を申し上げましたが、今後とも常に生活者の行政への期待、ニーズを的確に把握し、生活者の視点に立った行政運営を心がけてまいります。以上でございます。

決して理想論で言っているのではありません。和歌山でも三年前から、ブローケン・ウィンドー・セオリーを基本に、デリア・ツリー・ケア(あえてお節介をやく)というマインド(心)で夜のJRR和歌山駅周辺や新防犯パトロールしているグループがあります。それが、ガートリアン・エンジェルズというNPOの団体であります。私もその一隊員として、こういう形でパトロールに参加をしております。(帽子をかぶって示す)ぜひまた、ご覧になりましたらお声をかけていただきたいと思っております。このように市民つまり自立しようとする市民を支援するのがこれからの行政の役割ではないかと私は思います。今まで、住民と行政の関係は、依存、「分配」でしたが、これからは「自立」と「支援」という関係をつくり上げていかなければ、とも人口激減で高齢化率の高い社会ではやっていけないと私は確信しておりますので、参事まで申し上げます。

参事、知事へ。いよいよ来年は知事選がございます。もちろん、私にはとても恐れ多くてこの場で出馬の意向を確かめるなどということではできません。しかし、そのようなご意思があるものでしたら、次の四年間でどうし何をやって、何をどのような順序でいつまでにするのか、つまりマニフェスト、政権公約を一日も早く県民の皆さんに示していただきたいと思います。そして、その中にきょう私が何度も繰り返し述べた人口が大きく減少しているという現実をきちっと踏まえた上での方針を正直に訴えていただければ、県民の皆さんも健全な危機感を持って知事の改革の味方になってくれると私は思っております。またそのような大物政治家が対抗馬として出てこようか決して恐れることとはございませんので、ぜひマニフェストの作成を強く要望して、私の要望に答えさせていただきます。

ありがとうございます。

# 浦口こうてん議員の活動ダイアリー(日記)

## 「新生わかやま」県議団 幹事長に

10/23(木)

突然の山下直也幹事長「新生わかやま」県議団(自民党県議団)に入会により、急遽派会合が開かれ、私が幹事長代行から幹事長に全員一致で選出されました。また、それまで山下議員と2人で参加していた議会の重要な委員会、議会運営委員会」に一人で出ることになりました。同委員会は、各派のベテラン議員揃いで、一年生議員は私ひとりでの責任の重さをひしひしと感じました。

11/2(日)

私が主宰する「ニッケンスクール高典塾」の五島選手が、それまで、むずかしいとされた「形」の全日本大会で見事3位に入賞しました。一般部全日本団体優勝、全日本高校個人優勝、少年部全



子どもたちを指導する五島治郎選手

### 全日本拳法選手権形競技 ニッケンスクール高典塾 五島治郎選手3位入賞

ニッケンスクール高典塾(和歌山市西小2里)協会の主催「二〇〇三年度全日本拳法選手権大会」が、十一月二日に東京で開かれ、形競技・男子で三位に入賞した。

「一回戦は約一分半。そのわずかな時間のため、多くの人が一年かけてせめぎあう。特別な緊張感があります(後略)」

日本個人6連覇に次ぐが道場の快挙です。

11/12(水) 都道府県議員研究会 交流大会

第3回の同大会が開催され、全国から約600名の都道府県議員が参加し、基調講演4つの分科会に分かれ、研修会が行われ、議員提出条例の作り方」の第4分科会で、「政策法務」についてじっくりと学びました。一日も早く和歌山でも議員提案の条例を作りたいと思いを新たにしました。

11/16(日) 関西国際空港エアポータープロモーション、中国山東省訪問

11/19(水) 11/22(土) 関西国際空港の利用



中畑全国都道府県議会議長会会長と(愛媛県議会議長、前列右から3人目)



挨拶に立つ中山(副知事)団長



を促進し、和歌山県へも中国からの観光客を呼び込むことを目的とし、中山副知事を団長に、平野開空(株)副社長らと開空対策特別委員会副委員長として訪中しました。現在建設中の済南国際空港の幹部や中国航空局長、さらに張高麗山東省長らと面談し、開空と和歌山県を強くアピールしました。今福消防団員として

1/11(日) 和歌山市出初式 和歌山大学にてNPO講座 わかやまNPOセンターの理事である島久美子

12月定例議会 11/27(木) 12/16(火) 4月の当選以来初めて12/8本会議にて一般質問するために、約1ヶ月前からその準備をいたしました。特に11/27に議案が始まってからは、当局との打ち合わせで連日詰り状態、質問と答弁の「すり合わせ」が各部署の担当者で行われ、大変なエネルギーを注ぎました。吉備町にてNPO講座 1/18(日) 改革派知事シンポジウム (東京) 1/23(金) 開空対策

2月定例議会 2/23(月) 3/18(木) 平成16年度予算について審議する定例議会ですが、今開空の進め方の「三位」体の改革の一環として、国から補助金が約300億円カットされるといふ驚くべき数字が出され、財政当局も大変苦しい予算の組み方であったようです。そのよな中、昨年9月に予算委員会では集中的に質問した結果、木村知事から「来年度はNPO元年にしたい」という発言を受けてNPO予算が、昨年度約7千万円から約1億1千万円に増額されたことは大きく評価されることです。

3/1(月) 「市民自治ネットワーク」にて知事選マニフェスト説明 3/4(木) 毎回、国政選挙や市長選挙で、公開討論会を開

4/15(木) 「祭りを通じて和歌山を元気にする」というスローガンのもと4年前に若者と一緒立ち上げた踊りのグループ「和歌山MOVE」のメンバーが中心になり、その主旨に賛同してくれる約30名のメンバーで実行委員会を構成。7月25日の「第1回紀州よさこい祭り」の開催にむけ、月2/3回同委員会を開催しています。私は、サポータースクラブリダーとして主に広告・協賛金集めに走り回っています。

4/20(火) 和歌山大学の堀内秀雄助教を理事長に、15名の各種NPO関連団体の責任者等で構成されている理事会ですが、私も昨年6月まで理事として参加してきました。しかし、議員になったので、その職を辞してオブザーバーとして、月1回の理事会には、できるだけ出席させてもらい、色々な情報交換を行っています。

4/25(日) 26(月) 今福消防団に入団して約15年になり、今は、班長という立場ですが、今回、多田今福分団長のかわりに同団修に参加し、他の33名の分団長とともに福井市の防災センターを訪問し、地震やそれに伴う大火災についての研修を受けました。県議会で所属の総務委員会が「防災」を所轄し、いつも議論されているだけに大変参考になりました。



日本航空機本社で挨拶する森開空対策委員長、その向こう隣が尾崎県議会議長

3/22(月) 3/24(水) 昨年7月の三重県での会派研修に続く2回目の県外研修で、阪部顧問のそく、4名で参加しました。屋久島は、約10年前に日本で最初に世界自然遺産登録された地域で、本年7月に登録予定の高野・熊野と対比しながら、山の中や海岸、それに関連の施設を見て回りました。驚いたことにわずか一万数千人の人口の島で、約千人が他の地域から移住してきた人たちで、さらに島の専門のガイドだけで約百人がいるとのことでした。

4/6(火) 和歌山支部防犯部会 NPO法人 花いっばい協議会総会 4/8(木)

4/15(木) 第10回「紀州お祭りプロジェクト」実行委員会

4/20(火) 和歌山大学の堀内秀雄助教を理事長に、15名の各種NPO関連団体の責任者等で構成されている理事会ですが、私も昨年6月まで理事として参加してきました。しかし、議員になったので、その職を辞してオブザーバーとして、月1回の理事会には、できるだけ出席させてもらい、色々な情報交換を行っています。

お願い 議会の申し合せにより、年賀状・暑中見舞は差し控えていただきますので、よろしくお願致します。 浦口こうてん事務所

